

三遠南信地域交流たずねある記（8）

三遠南信地域 路線バス乗り継ぎの旅（4）

浜松駅から豊橋駅へ（1）

～ 東海道の風情を感じる旅・コロナによる運行への影響が（3）～

「ローカル路線バス乗り継ぎの旅」(以下「テレ東番組」)に倣った三遠南信地域を巡るバス旅。第2ステージ 浜松駅・豊橋駅間の旅へと進む。

■越境ルートを検討

浜松市、豊橋市という県庁所在地を最短で結ぶルートであるが、県境辺りのバス路線は疎らとなっている。テレ東番組では第2回目(2008年放映、東京日本橋～京都三条大橋)でこの県境越えを行っている。当時の放送内容をビデオを見ると、東海道本線新居町駅から愛知県の二川駅(豊橋駅の一つ手前の駅)までタクシーで移動している。最初の頃は路線バスがない区間はタクシー可とされていたようだ。

浜松駅から浜名湖の北を通るか南側のルートにするかだが(頁下概略図)、北側では、浜松駅から浜松市役所南など国道257号、その後県道261号で聖隷三方原病院、気賀駅前などを経て国道362号を三ヶ日まで行っている路線(遠鉄バス気賀三ヶ日線)があるが、県境を歩いて超える必要(徒歩区間約5km)がある。

バス旅を終えて改めて調べると、三ヶ日からコミュニティバス(オレンジふれあいバス)が本坂まで行っており、峠を越えて高山まで行くと豊鉄バスの豊橋駅行きがあることが判明したのであるが、峠の本坂トンネルの前後は歩かなければならない。

この国道362号から県道261号を辿るルートは「姫街道」(三河の御油《豊川》で東海道から分岐、本坂、気賀を経て見付《磐田》で東海道と合流)と呼ばれ、東海道の脇街道として往時は往来が盛んだった。こちらを訪れてみたい街道ではある。



国道1号線浜名湖バイパスと国道301号 (浜名湖弁天島付近)



遠鉄バス浜名線 浜松駅～馬郡 490円

■湖西市を目指すことに

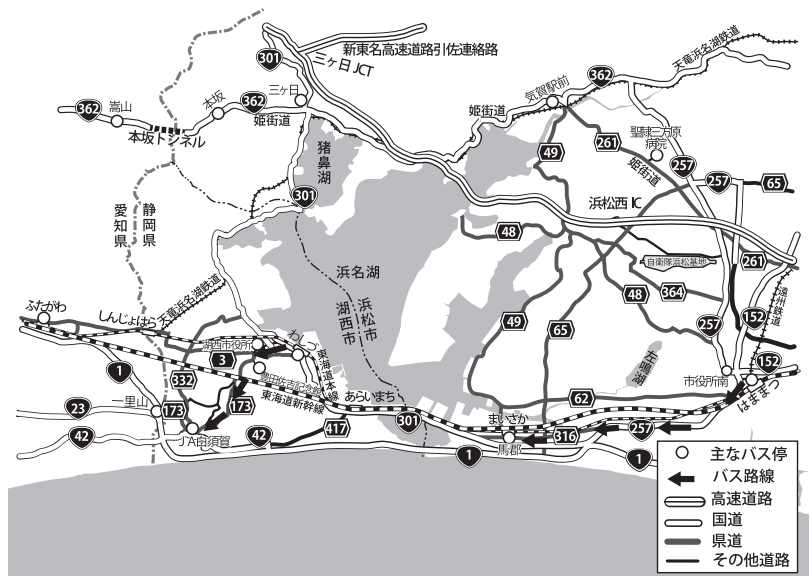
浜名湖の南側では、浜松駅から遠鉄バス浜名線がある。これを利用し湖西市を抜けて愛知県に入る。県境を越えれば豊橋市となる。

ただ、浜名線にはこれまで湖西市役所行きの便があった。実は令和2年、豪雨災害で国道152号通行止めの際、水窪町・浜松駅間を中抜きし浜松駅からこれに乗り豊橋駅を目指したのだが、前回(令和4年10月発行号 No.522)述べた遠鉄バス笠井線西鹿島駅・笠井上町間の路線廃止と同様、浜名線は途中の馬郡までとってしまった。

馬郡は東海道本線舞阪駅のところ。舞阪駅から鷺津駅まで電車で行けば鷺津駅からコミュニティバスで白須賀まで、そこから県境を越られそうだ。

以下では2年前のバス旅で見聞したことも一部交えて記すこととする。

三遠南信地域 路線バス乗り継ぎの旅 概略図 浜松駅～白須賀宿



## ■浜松駅から馬郡・舞阪駅へ

浜松駅バスセンターからは、以前の浜名線湖西市役所行きでは始発12時30分まで待たなければならなかったが、馬郡行きだと始発6時台から、毎時2本程度出ているので9時00分発に乗ることとした。浜松駅を出発、ショッピングモールザザシティ浜松から左折し国道257号を南下、東海道本線、東海道新幹線のガードを潜る。出発時は20名近い乗客だったが、途中のバス停で降り段々と減ってくる。途中バス停からの乗車は数人というところ。

バスは県道316号へと入り、両側が住宅の中を進む。この道路が旧東海道であることが判る。終点の馬郡バス停は現存する東海道松並木の中にあり、街道の風情を感じる。前回乗ったときは、バスはここから左折して国道301号に入り、浜名湖の弁天港を通った。弁天島には宿泊施設等が立ち並んでいる。小学生の時、浜名湖潮干狩り修学旅行ではこの辺に立ち寄ったのかと懐かしさを覚えた。遠くには国道1号浜名湖バイパスが見える(冒頭写真)。新居関所跡の前を通り、鷺津駅を経て終点湖西市役所に到着した。

今回は馬郡バス停で降ろされて徒歩数分で東海道本線舞阪駅に着く。舞阪は東海道五十三次の30番目の宿場町だったところ。舞阪駅から鷺津駅まで忸怩たる思いの電車移動となるのだが、踏切事故があったとのことで電車が来ない。2時間近くの待ちとなった。早めの出発だったのが幸いし後の行程への影響は避けられた。

## ■旧白須賀宿へ至る

電車で既に市境を越えているため鷺津駅は湖西市域となる。ここから市コミュニティバス(コーちゃんバス)で県境を目指す。湖西市は昭和30年に白須賀町、鷺津町、新所村、知波多村、入出村が合併し湖西市が誕生。同47年に市制施行となった。

湖西市の特徴というか売りは、同市のパンフレット(市HP)によると①「ものづくり精神のまち」製造品出荷額が県下3位、人口あたり製造品出荷額が全国1位(2018年)。スズキ(株)(湖西工場)やトヨタ系列の事業所など自動車関連をはじめとする製造業が集積している、②旧東海道の新居関所や宿場町の町並みの景観 新居関所は国内に唯一現存する関所、③近代産業の発展に尽力された豊田佐吉翁の生誕地 生家が保存され、豊田佐吉記念館が設けられて来訪者を迎えている。

バスは鷺津駅を出て湖西市役所など概ね県道173号を進むが途中で大きく逸れて豊田佐吉記念館に立ち寄る。道中は「ものづくりのまち」だけあって工業団地があちこちにあり、その他にも製造業の事業所が点々としているが、一方では以前農業が中心だった頃を窺わせる田畑が広がっており、その中を進んでいく。

やがて民家が密集して立ち並び、両側の軒が道路にせり出しているかのような集落にバスが入った。東海道の宿場白須賀宿だと判る。何十年も前のことだが、某食品メーカーの「お茶づけ」に安藤広重「東海道五拾三次」浮世絵のカードが入っており、それを5枚だったか10枚か集めて送ると揃い(五十三次に日本橋と三条大橋の55枚)のカードが貰えた。それを見ていたので東海道の宿場名はこの辺りで言えば、見付(磐田)、浜松、舞阪、新居、二川、吉田(豊橋)と、だいたい頭に入っているつもりだったが、この白須賀宿は抜けていた。バスの終点はJA白須賀(JAとびあ浜松白須賀支店)。集落の外を国道1号バイパスが設けられているため、旧宿場内の交通は殆どなく静謐が保たれている。各民家の前にはそれぞれの屋号が書かれた看板が立ち、宿場当時にどんな商売をしていたか説明書きで知ることができる。

ここから徒歩による静岡・愛知県境超えとなる。

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)



東海道長池松並木  
(浜松市西区舞阪町)



湖西市コミュニティバス(コーちゃんバス)  
白須賀鷺津線  
鷺津駅～JA白須賀支店  
一律：大人200円



豊田佐吉記念館  
(湖西市山口)



東海道旧白須賀宿  
(湖西市白須賀)